

砂の美術館を もつと楽しもう！

砂の美術館もこのたびで第3期。
ちょっと変わった視点で、砂の彫刻を楽しんでみませんか？

問い合わせ先

市役所第2庁舎鳥取砂丘室



(0857) 20-3036



午前の「砂漠の民」



午後の「砂漠の民」



夜の「砂漠の民」



夕方の「砂漠の民」

いつ見る？

屋外展示が基本の砂像は、太陽光の状態によって、見え方がずいぶんと異なります。テントがないために直射日光があたる、丘の上の展望広場の「砂漠の民」は、特に違いがよく分かります。

朝は作品の正面側に日差しがあたり、全体が明るく照らされます。午後になると逆光になり、表情にかげりが。夕方には、夕焼けをバックに、照明が穏やかに作品を照らします。

日が暮れてしばらくすると、漆黒の闇の中に、作品が照明によって浮かび上がり、背景の日本海沖には漁り火が揺ら

めきます。

「砂漠の民」を見るいちばんのおすすめは、午前中の順光の時間帯、次は夕焼けの時間帯でしょう。

テントの中は？

大テントの中の砂像は、日中には日差しに左右されず、いつでもだいたい同じように見られます。ライトアップされた夜間も必見！

正面の「ベルヴェデーレ宮殿」は、ほとんどの時間帯はテントで直射日光をさえぎられています。夕方のはんのわずかな時間帯だけ、夕日に照らされるのが見られます。



昼間の大テントの中

曇りの日は？

曇りの日には、太陽光が適度に散乱するため、ふだんは直射日光があたらず、暗く見えるところにも淡い光があたり、全体的に均等な光のもとに作品を鑑賞することができ

ます。案外、晴れた日には気がつかない作品の表情を発見できるかもしれません。

表情に注目

今期の砂の美術館の特徴は「人」。今にも動き出しそうなたくさんの人々が、リアルに表現されています。それぞれ



夜間ライトアップされた大テントの中



来年3月、鳥取港から吉岐島に向けて出発するクルーズ客船「ふじ丸 (23,235ト)」

鳥取港は、昭和50年4月に重要港湾の指定を受けて以来、山陰地方東部経済圏の物流拠点として、重要な機能を果たしてきました。

近年では、クルーズ客船の誘致に取り組み、ついに実現することとなりました。

来年3月には、本市と姫路市の姉妹都市交流の一環として、鳥取港を出発して、吉岐島を訪問し、姫路市に到着するクルーズ客船「ふじ丸」が運行されます。鳥取港がクルーズ客船の発着地となるのは、これが初めてです。

また、5月3日(月・祝)には、日本一周クルーズを行う「にっぽん丸(21,903ト)」が寄港し(発着地は横浜)、さらに7月25日(日)発・28日(水)着で「ぱしふいっく・びいなす(26,594ト)」が運行されます。

本市は今後も、鳥取港をクルーズ客船の発着地として、また、環日本海交流の拠点として、国内外にアピールしていきます。

《鳥取市・姫路市姉妹都市交流事業》
《鳥取市制120周年記念事業》

豪華客船「ふじ丸」で行く
吉岐島チャータークルーズ

旅行実施日

平成22年3月18日(木)～20日(土)

旅行経路

鳥取港→吉岐島→姫路・飾磨港

※料金など、詳しくは下記にお問い合わせください。

問い合わせ先

市役所本庁舎交通対策室

TEL (0857) 20-3257

鳥取港振興会(県庁本庁舎空港港湾課内)

TEL (0857) 22-1836

鳥取港からクルーズ客船が出発



真剣な表情のヴァイオリナ奏者

調和を図る第2ヴァイオリン、我が道を行くチェロ、はざままで苦勞するヴァイオラの各奏者の表情が巧みに表現されていて、もしや作者は弦楽に詳しいのでは、と



チーズを切る職人



「街の風景」をよく見ると...

の人がどんなことを思っているかを想像しながら表情を眺めると面白いですよ。

特に注目したいのは、「弦楽四重奏」の面々です。左端から順に、みんなを引っ張る第1ヴァイオリン、

興味が尽きません。
細部を見つめる

最初はその大きさが目を引く砂像ですが、細部の彫刻の繊細さも見逃せません。

例えば、大胆な遠近感を巧みに表現した「街角の風景」。21人も表情豊かな人たちが表現されていますが、中には、真剣な面持ちでチーズを切る職人の姿も。砂なのに、切れ味の良い包丁に見えます。

遠くを見るには

「ベルヴェデーレ宮殿」は、残念ながら近づいてじっくり見ることができません。カメラの望遠機能を活用するか、双眼鏡などをお持ちいただくのがよろしいでしょう。望遠レンズを使って撮影し



「ベルヴェデーレ宮殿」の細部

たのが、右の写真。こんなに細かく作ってあるんですね。刻々と表情が変化する砂の彫刻。ぜひ時間帯や天候を変えて鑑賞してみてください。